

<地場産農産物の加工・販売に取り組む事例>

○シークワサーの栽培で集落活性化

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	なごし かつやま 沖縄県名護市 勝山			
協定面積 19.6ha	田	畑 (100%)	草地	採草放牧地
		シークワサー		
交付金額 207万円	個人配分 0 %			
	共同取組活動 (100%)	集落協定の各担当者の活動経費	7 %	
		農業生産活動等の体制整備に向けた活動	33 %	
		水路、農道等の維持・管理	17 %	
		農用地等の維持・管理	34 %	
		その他	9 %	
協定参加者	農業者 43人、農業生産法人 1人、非農業者 1人			開始：平成13年度

2. 取組に至る経緯

勝山区は古くからシークワサーの栽培で有名なところであるが、農家の高齢化や価格低迷により、生産量は最盛期の 1/10 以下にまで落ち込んでいた。

その一方、近年の健康食ブームによりシークワサーが一躍注目を集め、県内外から注文が殺到したが、集落内では若年層の農業離れや耕作放棄地の発生が顕在化し、十分に対応することができなかった。そのため、シークワサーの生産振興に努めることなどを目的に集落協定を締結することとした。

3. 取組の内容

生産農家を中心に集落の有志による話し合いを持ち、肥培管理を徹底するなど生産振興に繋がる活動を行っている。また、住民総出で農道や集落道の清掃、維持管理を行っている。毎年 3 月に開催される「勝山・シークワサー花香り祭り」には市内外から述べ 3,000 人以上が訪れるようになっている。

近年、勝山区のむらづくりが評価され、平成 22 年度には「沖縄、ふるさと百選」認定団体になり、平成 23 年度には農林水産祭むらづくり部門にて農林水産大臣賞を受賞している。

協定参加者の農業生産法人がシークワサーの加工・販売を行っており、その製品が 2009 年モンドセレクション銀賞を受賞するなど高い評価を得ている。また、地域のリーダーや農家が郵便局と提携し、勝山区を中心に地元で生産された農産物の直接販売に取り組んでいる。



【勝山・シークワサー花香り祭り】



【シークワサーなどの製品】

〔集落の将来像〕

- 勝山シークワサーのブランドを確立し、さらなる品質向上、生産性向上を図る。地元の農業生産法人と連携し、シークワサー製品のPR活動等を継続して、農家経営安定化につなげる。
- 地域資源である山を利用して登山道や宿泊設備等の整備を行ったり、「勝山・シークワサー花香り祭り」を開催するなど、自然と触れ合える環境を整備し、都市住民等との交流を行う。
- 地域資源を生かした形で、勝山集落の発展を目指す。

〔将来像を実現するための活動目標〕

- シークワサーの品質向上、生産性向上に向けた勉強会等を行い、農家経営安定化を図る。
- 集落内の清掃活動、景観作物の植え付け作業を行う。
- 農業の継続が困難となった農地が生じた場合に備え、サポート体制を整備する。

農業生産活動等	多面的機能増進活動	農業生産活動の体制整備
農地の耕作・管理(畑 19.6ha)	景観作物(トックリキワタ等)	シークワサー出荷組合の設立
個別対応	及び蝶(幼虫)の食草の植栽	土づくりの励行・摘果の奨励
農道・集落道の清掃、草刈り	共同取組活動	青物を酢みかん用としての販売
・年3回		地場産原料100%果汁の直接販売
共同取組活動		シークワサーの積極的なPR
		先進地視察(県内・県外)
		集団的かつ持続可能な体制の整備 (農業の継続が困難な農用地が発生した場合には、集落ぐるみで引き受け、農業生産活動の維持を図る。)
		共同取組活動

4. 今後の課題等

地域内に居住している農業者は、家族や親族が農作業に参加し後継者として期待できるが、都市部や市外から通作している農業者に関しては、離農時の後継者確保に不安があるため、新規就農者の確保や利用権設定の活用等により農業生産活動の継続を図る必要がある。

農業用水は、水源が乏しく中山間地域として不利な面があるため、タンクを設置するなどして、負担なく確保できる方策を検討したい。

また、農道の整備は行っているものの、急傾斜の農地が多く作業用車両を農地内に乗り入れることが困難な状況があるため、耕作道を整備し、農作業の負担軽減を図る必要がある。

〔第2期対策の主な成果〕

- 農道・集落道の管理(住民による清掃・草刈年3回、依頼して行う有償清掃・草刈年3回)
- シークワサー生産者(年6回)や山羊生産者(年2回)による勉強会の開催
- 地域の農業者へ堆肥の無償配布
- シークワサーの街路への植樹(公民館周辺及び街路約1km)
- 勝山・シークワサー花香り祭り参加者の増(H17:2,000名、H21:3,000名)